平成30年度 第5回 健康ウォークラリー県大会

南あわじの魅力あつめて健康づくり

第5回健康ウォークラリー県大会が11月8日に南あわじ市福良地区で開催されました。43チーム（1チーム5名）215名が選手で参加しました。

南あわじ市福良地区公民館をスタート・ゴール地点として、「ちりめんロード」コースと「八幡神社」コースに分かれ、コースのコマ図に示されている観察ゾーンや4ケ所のチェックポイントを回りました。チェックポイントでは「玉ねぎで500gに挑戦」や「力をあわせて天高く積もう!」等のゲームに挑戦したほか、まちの人にインタビューをして「まちの自慢するところ」等を聞きました。得点は、要した時間と設定時間とのタイム差や、ゲーム・課題の得点で順位が決まり、大会の結果は、優勝は尼崎市老連、準優勝は播磨町シニア連、三位が香美町老連となりました。

優勝の尼崎市老連

SC大阪（大阪府老連）とのじぎくクラブ兵庫の交流会

クラブの休会、退会防止を検討

今回で3回目となるSC大阪（大阪府老連）若手委員との交流会が、10月18日に篠山市立四季の森生涯学習センターで行われました。交流会には、SC大阪から12名、のじぎくクラブ兵庫から9名が参加しました。

グループ討議の様子

双方の若手委員が交野市と南あわじ市の活動を発表したあと、3グループに分かれて休会・退会防止や日頃の活動について情報交換しました。

また、午後には参加者が丹波篠山の特産品である黒大豆枝豆の収穫体験と篠山城跡などの市内散策をして、交流を深めました。

市町老連会長に聞きました

こんな老人クラブにしたい

平成30年12月に県内39市町老連会長全員に、アンケート方式で「会員から評価されている事業は何か」、「団塊の世代が入会してもらえる取組み」、「女性・若手会員の活躍」等についてご意見を伺いました。

◆会員に評価されている取組みとしては、グラウンド・ゴルフやニュースポーツなど健康づくり活動が中心で、一部市町では、パソコン、スマホ教室やサロン活動が行われています。

◆団塊の世代が老人クラブ活動に参加してもらうにはどのような対応が必要かについては、大きな年齢差があるので年代別の活動を取り入れることや、団塊の世代の意見を聞いて老人クラブ活動に取り入れる必要がある、との意見がありました。

◆女性会員への期待や課題については、既に女性会員が単位クラブ会長に就任され、女性の特性を生かした活動を展開されていることを踏まえ、女性だから男性だからと言う状況でないとの指摘がありましたが、女性の特性を生かしてさらなる活躍を期待するとの意見も多数ありました。また、一部には単位クラブ会長は男性がやるべきとの意見もあり、女性会長に対する考え方には地域差が見られました。

◆若手会員については、若手会員の意見を取り入れる体制や役員登用などが整備されて若手が活躍している市町が多くありましたが、若手会員の高齢化や若手の活動が別組織のようになっているとの指摘もありました。

◆情報発信の強化については、老連が発行する広報紙の充実のほか、市町広報紙への記事掲載が望ましいといった意見がありました。また、ネットやSNS利用については、高齢者へのパソコンやスマートフォンの普及が途半ばで、今後の課題とされる意見が過半を占めました。

◆全般を通じて、市町老連が多彩な工夫をされていることがうかがえました。会員の高齢化が進むなかで、団塊の世代を老人クラブの会員に迎えることが重要な課題になっています。

わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています